私は、京都の日本自立生活センターで活動しています。小泉と申します。

京都では、最近は筋ジス病棟からの地域移行を積極的に進めるなど、障害者の地域自立生活を広げる活動を展開しています。

けれども、最近、私たちの「生きる」を否定するような動きも強く感じられるようになりました。

今日は、安楽死という名の嘱託殺人や幇助自殺の問題に対する京都の取り組みを報告します。

日本自立生活センターでは、昨年 6 月 2 日 NHK で放送されました「彼女は安楽死を選んだ」の報道において、私たちの尊厳や生命を脅かすような内容だったため BPO に申し立てを行いました。

私たち障害者は、社会から常に、邪魔者の扱いをされてきています。命すら否定され続けてきました。その中で、あの番組は、人の死を、美しく描き、苦しむ人はこのように死んでいけるよ。社会から邪魔者扱いされるのなら、死んだ方がいい。とのメッセージを与えました。

しかしながら、私たちは、苦しみを仲間たちや支援する人たちの支えの中で時に幸せを感じる瞬間もありながら生き続けています。そのような生き方があることを報道せず、生きていけば家族の迷惑、社会

の迷惑になると受け取りかねない報道を私たちは許せませんでした。同時に「死にたい」「死なせたい」そのように感じる人たちが増やすのではないかと危惧してところに、京都の地で「嘱託殺人事件」がおきました。

私は、障害当事者で、ヘルパー派遣事業所の管理者でもあります。そのため、ヘルパーが24時間入る形での暮らしを見てきました。ですから、今回亡くなった林さんがヘルパーと共に苦悩していく日々は、想像がつきます。「死にたい」そう思う日々もあったでしょう。「死にたい」そう思う時に、「楽に死ねるよ」と思わせたら、ゴロゴロと自分自身の中でも「死」へと転げだしてしまうだろうと思います。

この社会には、まだまだ私たち障害者の「生きる」を否定するメッセージがたくさんあります。私たちのことを「死なせたい」「ラクに死なせてあげたい」と思っている人も多いのかもしれません。だから、今回のような医師の肩書を利用した殺人事件が起こりました。まだまだそういう思いの人がいるのではないかと思うと、ぞっとします。だから、私たちは声を大きくして言うことが大事だと思います。

医者・医療は、人の命を救うことを全うしてください。

報道は、生きる可能性をみいだせる報道をしてください。

国は人が生きるための手助けするような法制度を作ってください。

これ以上、私たちを「死」へと追いやらないでください。

私たちは、「生きています。」そのことをしっかり見てください。

よろしくお願いします。